

日英翻訳ルール

今般の翻訳業務は、意味を加えるなどの意識は出来る限り避けるとともに、大学院講義として相応しい言葉使い(表現、用語等)を用いること。大学院講義科目のテープ起こしにより作成した日本語テキストデータを用いることから、翻訳に際しては以下に掲げる事項に留意して実施すること。

なお、本学における発注文字数については、マイクロソフトWord2013Windows版の「文字カウント」機能を用いて導き出した「全角文字+半角カタカナ」の数値とする。

○原文と訳文の対応（改行・空行位置の保持）

日本語テキストと納品される英語テキストの対応が自明となるよう、原文と対応する訳文はファイル中の同一行数の位置となるように改行および空行の位置を保持すること。

○英訳しない語句の扱い

資料3の例（構文解析→{koubunkaiseki}）にもある通り、日本語では～と言う、というように用語を英訳することがふさわしくない場合は、ヘボン式ローマ字表記（すべて小文字）を“{}”で囲んで表記する。

○用語訳の統一

同一の用語に対する訳語は、特に訳語を変更する理由がない限り同一文書内・同一講義内で統一すること。